

西島宗二郎先生胸像建立期成会 報告書－昭和44年12月27日

znakao

一九六九年十二月二十七日

会 務 報 告 書

西島宗二郎先生胸像建立期成会

西島宗二郎先生銅像建立決算書

総収入	7,298.91
総支出	3,962.14
差引残額	3,336.77

収入の部	寄付金	7,281.00
	預金利子	17.91
合 計	\$	7,298.91

支出の部

銅像製作費		
銅 像 費	\$	1,000.00
敷地料並工事費		1,448.00
追加工事費		350.00
除 幕 式 費		150.00
祝 賀 会 費		450.00
旅 費		345.20
諸 雑 費		218.94
合 計		3,962.14

1969年12月23日監査の結果上記の通り相違ありません

監 査 員

島		武 吉 印
山 城		要 三 郎 印
田 港		朝 明 印

さつて有難う御座いました」という言葉で始まる。これは先生だけでなく、沖縄における色々の会合で主催者が常に口にする常套語といえよう。これは普通の集まりでは極めて当然の言葉であるが師範免許状授与式における訓示の中でこの言葉を聞いた時にはビックリさせられたのであった。この言葉は長い間私の心にひっかかっていたのであったが次の話を聞いて成る程とうなづけたのであった。

桑江翁が伊差川先生を始めその高弟等に野村流の凡ての節を伝授し終えたとき、弟子等を辻のある家に招き、羽織、袴の正装に威儀を正し、両手をついて「習って下さつて有難う」（ナラティ クイティカフーシ ャタンドー）と御礼をいわれたということである。廃藩によって王府の庇護を離れ、顧みる人の少なかった古典音楽を後世に伝えることは野村翁の高弟であつた桑江翁にとっても至難の業であつたであろう。その大任を果して師、野村翁の附託に応え得た喜びは現在の吾々にも想像はできるのである。これと同じ苦心は伊差川先生も味わわれたのではあるまいか。何故なら野村流の全節を習得するには少くとも15年以上を要し、入門者の1割もそこまでは到達しないのが普通だからである。

伊差川先生の声楽譜附工工四の御蔭ではあるが仲節まで演奏できる人は百人を越え、師範の免状を受けた人が7.80人いる現在でも尚免許状授与者が受領者に礼をいわれる理由もうなづけるような感がするのである。

二、先生の音楽に対する態度はプロ的ではなくアマ的事であること

先生の音楽に対する態度は全くアマ的事であつて、少しもプロ的の処はない。それは弟子等に謝礼を要求しないということだけではなく、野村流音楽協会副会長を多年勤めておられるが、いろいろの集まりに旅費も支給されず、請求もされてないということである。芸道50年、とはよく聞く言葉であるがかかる人々にとって、芸道は生計の道でもあろう。それゆえ一生続けても特にどうということはないが先生は音楽を習い始めて60年に近く、その実力は野村流音楽界の第1人者でありながら、生計の途ではない。かかることは余程好きでなくては続かないのである。

三、その音楽は貴族的ではなく、庶民的であること

琉球古典音楽は宮廷音楽であつて、庶民音楽とはいへまい。随つて歴代の祖師たちは威厳を重んじ、荘重、厳肅を旨としたのである。

伊差川先生の門弟等が西島先生の入門を拒否したのもここに理由があつたのではある。

まいか。然るに西島先生の音楽に対する態度は極めて庶民的で人を選ばない。西島先生の野村流に対する最大の功績はこれを世界的広さにまで普及させたことと思うが。それは西島先生のこの態度に負う処が大であろう。若し先生が貴族的で、伊差川先生の門弟等と同様の態度をとられたら野村流今日の隆盛はなかつたのである。

以上 西島先生の功績の概略を述べたがかかる美点は眼識の高い人には極めて明瞭に見えるが 然らざる人には極めて平凡にしか見えない。教えることに熱心であることも人に教えたことのない人には習ってやるから有難く思え と心得ちがいをする人がないとはいえまい。更に態度がアマ的であり 庶民的である人はその反対の態度を好む人にはつまらない人に見え勝である。音楽修業5年の人には先生は自分より少し上位に見えるであろう。10年15年の人にも矢張り少し上だと見るのではあるまいか。しかし50年の人にも矢張り自分より上だと見えるはずである。これを逆に述べると音楽修業50年の人でも自分が遠く及ばないと見えるのであるが、4.5年の人でも少ししか上に見えない。これが真に優れた人の特徴に他ならないのである。而して、これがいかなる段階の人からも尊敬されると同時に愛される西島先生の最高の徳といえよう。西島先生の弟子が沖縄本島や日本本土はもとより、遠くハワイ、アメリカ、ブラジルやアルゼンチンに広くひろがっている最大の原因である。

西島宗二郎先生胸像建立期成会報告書－昭和44年12月27日

<http://p.booklog.jp/book/97849>

著者：野村流音楽協会

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/znakao/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/97849>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/97849>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ